「巣雲」　たっちゃんニュース

　こんにちは、佐藤たつひこです。連日猛暑日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。リオ五輪に沸いた今夏、日本の各スポーツ選手の大健闘により、メダル獲得は過去最高の４１個になりました。私が最も感動したのは、バトミントン女子ダブルスで金に輝いた、「高松ペア」こと高橋・松友ペアの決勝戦でした。小学生時の出会いから、高校からペアを組み続けている経過を知ると、終盤の「負け」の２文字が過る中での大逆転勝利を見たときは、少し目尻に熱いものを感じました。

　先ず始めに、今回の「たっちゃんニュース」の発行が遅れてしまいました事を、お詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。それでは、６月定例会に於いて取り上げました質問を報告させていただます。

伊東市学校給食センター

　先日８月１日に落成式を終え、８月２５日に試食会が行われる「伊東市給食センター」ですが、６月議会では工事の進捗状況・衛生管理・アレルギー対策・献立について、細かいところではありますが、質問しました。その中で、当センターでは市内８校（小学校５校、中学校３校）へ３０００食を作る県内でも稀な大規模施設だという事を市民のみなさんに知っておいて欲しいです。伊東市の給食は自校方式を採用していた事から、県内外から多くの視察団が訪れる注目度の高い自治体だったのです。しかし、中学校給食は県内では唯一実施されていなかったことや、全国的にも遅れていた中で、多くの保護者の声や市民の運動で、ようやく実施される事になりました。だからこそ、センター方式を採用し実施するのであれば、自校方式と変わらないサービスが求められて然るべきではないでしょうか。給食センターでの衛生管理は大まかに３段階プラスαで、搬入搬出口はプラットホーム式で、搬出口に到ってはトラックがドッキングするドック式になっており、衛生面では徹底さが伺えました。また、受け入れる各学校の搬入搬出口にもプラットホーム式を採用し工事が進められているとの答弁がありました。アレルギー対策では、各校に専門の栄養士さんを配置しない考えが示され不安が残るものの、センターには確実に配置され対策室が調理工程から独立される仕組みになる事から、誤配送を防ぐようになるということでした。また、アレルゲン主要７品目以外でアレルギーが出る児童生徒の家庭には、それに変わる「おかず」を用意していただけるよう働きかけるそうです。そして大変危惧されていた３０００食を賄う献立ですが、小中学校で別献立を用意し食材の購入方法を別々にする事や、食材が被らないようにすることで、できるだけ市内もしくは地元業者からの仕入れに頼り、地産地消で提供するとの答弁がなされました。色々と問題点が残る中でも走り出した「給食センター」ですが、多くの保護者から待ち望まれていた事を顧みると、喜ばしくもあります。今後も運用される中で取り上げていきます。

移住促進

　みなさんの中でも、既にご覧になった方もおられると思います。伊東市ＰＲ動画で、本市の魅力を全国にアピールし、観光客や移住者の誘致・促進を目的にしています。その動画再生回数をYouTubeで確認したところ、当時で１６０回と伸び悩み、２年前から公開されている動画でもわずか５万回です。しかし、有名な地方自治体の動画には公開時１年間で２００万回以上にもなるものもあります。ＰＲ動画の利用方法の見直しや、「いざ移住！」を決断した方への施策を質しました。視覚に訴えるＰＲ動画の活用は有力な手立てだと思います。動画に関しては今後、首都圏にある大型スクリーンでの上映をはじめ、都内にあるアンテナショップで流すことを中心に、マリンタウンで随時放映する答弁がありました。そうした中で、「いざ伊東市に移住しよう！」と考える方々が近年増えているそうですが、そうした人が移住する際に購入するのが、中古物件です。特筆すべきは、約７００万〜２０００万円クラスの物件に集中している点です。そうした購入者が直ぐにでもリフォームしたいと考えられるのではないでしょうか。真っ先にリフォームしたいが、本市のリフォーム助成には、幾つかの制約があります。それは、「住民登録がされ、本市に１年以上居住している」です。この制約を緩和する事で、移住の決断をする人が増えると考えます。直近の昨年度での助成制度利用件数は３２７件で２６７２万円、助成開始から累積で約３億円が使われたそうです。現在では「商店街パワーアップ」として店舗リフォームにも助成している事から、市民生活や地元業者においても重要な施策であるのと同時に、今後は見直しや拡充も検討していく方針がある答弁を引き出すことができました。

幼稚園一時預かり保育

　今年度５月６日から、公立幼稚園２園（宇佐美、八幡野）で開始された「一時預かり保育」の体制について質問しました。選挙の公約で幼稚園保育料の値上げをさせないとしていた私ですが、幼稚園改革が進まない中で保育料が上がる際に「保育園と変わらない公共サービス」が指導するとの答弁が職員からなされ、その一環に一時預かり保育があり、進まない改革の火付け役になると考え賛成する流れになりました。一時預かり保育の体制が気がかりでしたが、各園に元園長を含む保育経験者が配置され、３歳児には「お昼寝」の時間を用意するなどの工夫がされています。利用状況は５月で宇佐美３２名、八幡野１４３名の利用があり、６月１４日現在では宇佐美７９名、八幡野２３８名にのぼるとのことでした。今後このように利用者数が増加する中で、施設の広さや保育者の補充が必要になっていくことから、検証するなかで検討していく旨の答弁がされました。当該２園以外の保護者からは、早い段階での開始が望まれる声も上がっています。